

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念はスタッフルームやリビングに掲げてある。</p>	<p>理念はスタッフルームやリビングに掲げてあるので、職員で共有してサービスの向上に努める。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念はスタッフルームやリビングに掲げてあるが、職員の交代もあり今後も意識的に取り組む姿勢が必要である。</p>	<p>職員の交代もあり、今後も意識的に取り組む姿勢が必要である。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>新入所時や、運営推進会議の中で話し、広報に載せて理解をいただくように努力している。</p>	<p>家族、地域の方全員には理解いただいていないと思うので今後も努力していきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣近所の方とは、日常的に声を掛けあったり、回覧板も回ってきている。中庭の畑に来られる時は、気軽にお茶を飲んでもらっている。</p>	<p>より多くの方から、来ていただくように働きかけていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域ふれあい交流、納涼会、保育園交流等を通じて深まってきた。また、なかよし便りを各戸に配布して交流を深めるようにしている。</p>	<p>今後も交流の輪が広がるように取り組んでいきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年、地域包括センターと一緒に広範囲の地域の方に、なかよし寿の家を紹介をした。		利用者の支援でいっぱい、取り組みが遅れている。今後検討していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をする際には、職員一人一人から取り組んでもらう。昨年の指摘事項は、取り組みが遅れた。		評価を受けた後は、改善に向けた取り組みを速やかにしていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。今年度は構成員の交代があり、理念の説明、サービス状況の説明等を詳細に行った。また、貴重な意見はサービス向上に活かしている。		今年度は、防災体制を具体的にして避難訓練を実施する予定である。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の高者福祉課、介護保険課、社会福祉協議会、地域包括センター等と連携してサービスの向上に努めている。		今後も継続して取り組んでいく。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設長は権利擁護事業や、成年後制度について学ぶ機会があったが職員は機会はない。地域権利擁護事業を一人利用されている。		地域権利事業を一人利用されているので、社会福祉協議会の担当者から学習する機会を検討したい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止の徹底に努めている。身体拘束委員会の委員を中心に母体の研修に参加したり、情報提供を行っている。		職員の交代もあり、更なる学習の機会や、防止の徹底に努力していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、運営規定、重要事項説明書、個人情報等をきちんと説明している。また、退所基準についても説明している。不安や疑問についても、問い合わせさせていただくように説明している。</p>	<p>今後も継続して取り組んでいく。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の声を大事にしている。職員間で情報の共有をはかり、不安、不満の解消に努めている。</p>	<p>外部に現せない利用者の方に対して、不安、不満等を職員が気づくようにしていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の毎日の生活の様子、健康状態、担当交代、異動等は面会時や、なかよし便り、運営推進会議(議事録)、電話等で報告している。</p>	<p>今後も継続して取り組んでいく。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付箱は設置されているが、殆ど利用されていない。電話での問い合わせも含めて意見、苦情はあまりない。</p>	<p>面会時や、ケアプランの更新時等の機会を利用して職員の方からも働掛けていく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフ会議や日常の業務の中で意見を聞くようにしている。</p>	<p>今後も継続して取り組んでいく。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況や変化、受診の付き添い等に合わせて対応できるように柔軟に取り組んでいる。</p>	<p>今後も継続して取り組んでいく。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動時には、利用者にお話している。担当交代についてもお知らせしている。</p>	<p>今後も継続して取り組んでいく。</p>
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>各種マニュアルが整備されているが、職員の交代もあり周知されるように取り組みたい。</p>	<p>母体の看護師による、マニュアルを資料にした学習を予定している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>	<p>法人全体で年間計画に沿って各種研修会が行われている。また、委員会別にも学習会が行われている。(初任者研修、中堅職員研修は実施済み)法人の3グループホームの学習会、また、なかよしでは、いなほ園認知症専用棟での研修も実施中である。</p>	<p>法人、いなほ園、GH等の学習会と合わせて、職員の交代もあったので、なかよしで緊急時の対応、認知症の学習会を検討中である。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人の3グループホーム、認知症相談センターとは日常的に交流している。他のグループホームとは、以前に認知症の研修生を受け入れるのみである</p>	<p>今後検討したい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>意見を聞く機会や、飲み会の参加の機会はある。今後も工夫して取り組んでいきたい。</p>	<p>今後も継続していく。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>正職員は、人事考課が実施されていて目標をもって業務に取り組む姿勢ができています。</p>	<p>研修の機会等を通じて職員の格差をなくすようにしたい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所時には、特に環境の変化に配慮して受容を大切にしている。利用者の方は一人ひとり違うことを職員も理解して支援している。また、家族からも協力いただけるように働きかけている。</p>	<p>利用者の状態に合わせて支援できるように、職員間で情報の共有を図り信頼関係を構築していく。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>不安や疑問について問い合わせいただくように、機会あるごとに話している。電話での問い合わせも含めて対応している。</p>	<p>利用者の状態に合わせて支援できるように、職員間で情報の共有を図っていく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談には、傾聴をきちんと行い必要な支援を見極めて、サービスを提供するように努力している。		適切なサービスを、提供できるように今後も検討していく。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申し込みの際には、丁寧な説明や見学も行っている。また、入所に際しては、今までの生活歴を大切にしている。家族には、部屋の雰囲気づくりや、面会もお願いして徐々に馴染めるように配慮している。		今後も継続して取り組んでいく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の会話の中からや、食事作り、畑作りなど出来ることを通じて教えてもらうことがある。		今後も、一人ひとりを尊重して支援を継続していく。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の関係から差はあるが、本人の情報提供や、面会、外出、受診時の付き添い等に協力をお願いしている。利用者の方が、穏やかに生活できるように支援している。		今後も継続して取り組んでいく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の関係から差はあるが、一人一人の家族関係に配慮しながら支援している。		今後も継続して取り組んでいく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ馴染みの方にも面会に来ていただきたいが、一部の人のみである。		なじみの人との関係までは手が回らないが、美容院や往診の医師との関係は大事にしていきたい。家族にも協力いただかないと職員だけでは取り組めないなので、協力をいただくように働きかけていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶や、レクリエーション等で、利用者同士が関わられるように支援している。また、トラブルにならないように職員が介入している。		職員間の格差をなくして、今後も良好な関係が構築できるように支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	法人の施設に入所している方もあるので、可能な限り面会に行きたいが数回行ったのみである。		業務の支援でいっぱいであるが、努力して行きたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の出来ることをやっていただき、普通の生活ができるように支援しているが、個人差がある。外出、外泊は本人の希望通りにいかないことが多い。		本人思いを尊重していきたい。外出や外泊は、職員だけでは限界があるので家族の協力も必要である。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報提供や、家族から聞いたりしている。また、本人の会話の中からも情報を得るようにしている。		職員間の情報の共有や、本人の話からの情報を大切にしていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、心身の状況の記録をして状態の把握に努めている。体調にあわせて、できる事をやらしてもらったり休息してもらっている。		今後も継続して取り組んでいく。
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人中心の介護計画になるように、出来ることを中心プランにしたプランである。家族の意向も何うが、あまり希望はない。		今後も継続して取り組んでいく。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体調が大きく変化した時は、見直しを行っている。家族、職員と話し合うが本人との十分な話し合いは不足している。		本人が理解できなくとも、参加していただくように働きかける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や、気づきを記録して情報共有している。ケアプランの介護経過も記録しケアプランの見直しに活かしている。		今後も継続して取り組んでいく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望にそった支援ができるようにしているが、重度化もありできていないところもある。		適切なサービスを、提供できるように今後も検討していく。
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員が運営推進委員会のメンバーなので、畑作りを中心に支援してもらっている。消防署による救急法の講習会の予定、保育園との交流の予定がある。		地域資源を、有効に活用できるように検討していく。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーや、サービス事業者とは、利用者の紹介や、入所後の生活の様子、退所時等に連携している。		今後も積極的に連携していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域権利擁護を利用されている方が1名あり、社会福祉協議会の担当者とは、連携が取れていて適切なサービス支援につながっている。地域包括センターとは、地域権利擁護事業について具体的に協働はないが、他のことで十分な連携ができています。		今後も積極的に連携していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に際しては、協力病院だけでなく、症状に合わせて家族や本人の意向を大事にして支援している。入所前の主治医から、往診に来てもらっている方が1名ある。		今後も現状で継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院の医師は精神科の医師であり、4週間に1回定期的に受診している。体調に変化があった時は速やかに受診して相談している。		今後も継続して取り組んでいく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院の看護師、いなほ園の看護師に相談したり診てもらっている。		今後も継続して取り組んでいく。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は、家族から情報提供してもらっただけでなく、施設長(ケアマネジャー)が病院に行き、直接医療関係者と情報交換して利用者や、家族の安心や退院につなげている。		今後も継続して取り組んでいく。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所の契約時にきちんと説明している。重度化なった場合は医師や、家族と連携しながら職員間で情報共有している。		今後も継続して取り組んでいく。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化になった場合は、家族に本人の状態や、主治医からの情報提供についても説明している。今後の変化に備えた対応の検討や、準備もおこなっているがグループホームだけでは解決できない事も多い。		今後も継続して取り組んでいく。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族、ケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行っている。		今後も現状で継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーや、個人情報の取り扱いについては注意している。職員の個人差はあるが言葉かけについては、馴れ合いにならないように注意している。</p>	<p>プライバシーや、個人情報に配慮した取り組みを継続していく。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>利用者に合わせて自己決定できる方はしているが、できない方には支援している。</p>	<p>利用者の方が、自己決定できるように支援していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な日課があるが、利用者の状況に応じて柔軟な対応をしている。</p>	<p>今後も継続して取り組んでいく。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみの支援はしている。外出時なども本人にふさわしい服装になるように支援している。理容、美容院はその人に合わせている。</p>	<p>今後も継続して取り組んでいく。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立作り、買い物、食事作り、後片付け等一緒に行っている。重度化に伴い、最近ではできない方も増えてきている。</p>	<p>今後も継続して取り組んでいく。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲み物やおやつに関しては、好み等に配慮して楽しめるように支援している。</p>	<p>今後も現状で継続していく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別にトイレの声掛けをして、排泄できるように支援している。		今後も継続して取り組んでいく。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴していただくように支援している。体調や希望に合わせて行うので、順番は決めずに柔軟対応している。		入浴が好きでない人には、声掛けを工夫していく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の方に合わせて、安心して休息できるように支援している。		今後も現状で継続していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来ることを生活に活かしている。レクリエーション、余暇活動、食事作り、後片付け等利用者に合わせて支援している。		今後も継続して取り組んでいく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭管理はしていないが、1名自己責任において小額管理している。		買い物に行く時や、外食等は立て替え金で対応している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日光浴や、散歩の機会は日常的にある。一部の人ではあるが、買い物同行の機会がある。		今後も継続して取り組んでいく。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	業務で忙しく個別の外出支援まではできないが、行事としてお花見や、新緑を見に行ったり、外食をしたりして気分転換を図っている。家族との外出は、家族により差が見られる。		今後も継続して取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	積極的に支援しているし、家族にも協力してもらえるように契約時や、機会があるごとをお願いしている。		今後も継続して取り組んでいく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に来て頂けるようにしている。また、居室でゆっくりと過ごしていただけるように湯茶を出している。		今後も継続して取り組んでいく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会のメンバーを中心に取り組んでいる。法人内の研修会参加や、マニュアルもある。身体拘束をしないケアをしている。		職員の交代もあったので、今後も継続して取り組んでいく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	きちんと取り組んでいる。夜間の防犯上のみ鍵を掛けている。		今後も継続して取り組んでいく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に、常に所在確認を行って安全に配慮している。		ADL下や、認知症の進行も見られるので、安全に配慮していくて今後も取り組んでいく。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は、状態に応じて預かって危険のないようにしている。		今後も継続して取り組んでいく。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルや研修会を実施している。一人ひとりの情報を共有して事故防止に努めている。		事故防止に今後も取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	母体の研修会で行っているが、職員の交代もあり、今後も定期的に行う。		事故防止に今後も取り組んでいく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度は、地域の方との協力を得て避難訓練を予定している。		地域との防災作りを検討中であり、今年度中に避難訓練等を実施する予定である。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に説明すると共に、個別の状況に合わせて連絡している。		今後も継続して取り組んでいく。
semei				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日2回のバイタルチェックや、体調観察を行い不調時には、速やかに受診につなげている。		今後も継続して取り組んでいく。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時には、薬の確認を行っている。個別の袋に入れて誤薬のないように注意している。副作用の症状がある時は、速やかに受診して主治医と連携して体調の安定を図っている。		今後も継続して取り組んでいく。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼らないように、体操、歩行、乳製品の摂取、水分量の把握等工夫している。		今後も継続して取り組んでいく。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食前は、うがいをしている。食後は、きちんと歯磨きや口洗浄をおこなっている。		今後も現状で継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、母体の栄養士から見てもらっている。水分は、午前、午後のお茶や入浴後の水分補給をきちんとしている。むせがある人には、ポカリゼリーやとろみを付けている。しかし、拒否気味の方もあり十分取れていない方の対応が難しい。		お茶や、水分を拒否するの方には、声掛けや飲み物を工夫していきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症委員会がありマニュアルも整備されている。情報の提供、共有を図っている。うがい、手洗い等は日常的に行っている。館内消毒も1年に2回実施している。		今後も継続して取り組んでいく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日調理用具は消毒している。また、食器は乾燥機で乾燥している。食材は、毎日買い物に行き安全で新鮮な食材を購入している。		今後も継続して取り組んでいく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	案内板があり、玄関周囲に花を置いて工夫している。駐車上の奥なので気軽に入りやすいかは分からない。		今後も継続して取り組んでいく。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は生活感や、季節感を出すように工夫している。利用者の作成した季節のカレンダーも掲げている。		今後も継続して取り組んでいく。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、思い思いに過ごせるようにしているが、空間が少し狭いので一部の方だけの活用になっている。		今後も継続して取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方が、自宅で使用した馴染みのもの置き、過ごしやすく工夫している。		今後も継続して取り組んでいく。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の状況に配慮しながら、換気や温度調節を適宜に行っている。		今後も継続して取り組んでいく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて安全な環境になるように工夫している。		今後も、利用者が安全に過ごせるように継続して取り組んでいく。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者が理解しやすいように、はっきりと分かりやすい声掛けを工夫している。トイレの目印や居室に名前を掲げている。		今後も継続して取り組んでいく。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭が畑なので、畑作業を通じて楽しみや意欲を引き出している。また、収穫の喜びも味わっている。日光浴の際には、気分転換や社交の場として十分活用されている。		今後も有効に活用していく。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)